

現行方針と次期方針の比較

現行方針

■ 考え方

- ・長寿命化により、膨大な建築物等の整備・維持運営に係る財政負担を軽減

- ・点検から修繕・改修までの一体的な管理
- ・予防保全型の計画的な修繕の実施
- ・維持保全に係る業務の集約化

■ これまでの取組

- ・道有建築物等の基本情報をデータベースで整備
- ・道有財産等有効活用促進会議施設整備検討会で検討
- ・長寿命化改修の実施
- ・計画修繕予算の集約化
- ・小破修繕業務の集約化

など

次期方針

■ 新たな考え方(想定)

- ・耐用年数を迎える施設の増加及び社会経済情勢の変化に対応するため施設の最適化など

- ・施設の集約化・複合化
- ・未利用財産の処分等の推進
- ・道有建築物等の長寿命化

■ 具体的な取組

全庁横断的に進めるため、これまでの取組の課題(施設管理者ごとに管理や検討を行い、集約化などについて個別に検討していたことなど)を踏まえ、庁内の連携体制の強化や、民間ノウハウの更なる活用、地域との連携強化などの視点に立ち、具体的な取組を検討

【取組イメージ】

- ・エリア毎の集約等の検討
- ・用途廃止施設の計画的な解体工事等の実施
- ・機能的で働きやすい執務環境の整備